

SGH国内フィールドワーク（水班②）

①長崎大学環境科学部（講義・実習「水の味を科学する」）

7月31日（月）、28名の生徒が長崎大学環境科学部を訪問し、「水の味を科学する」をテーマに、利部慎助教による講義と「利き水」の実習を受講しました。生徒はCOD（化学的酸素要求量）の値を計測する体験をしたり、水の味見をしながら硬度について学んだりして、課題研究に向けて貴重な経験を得ることができました。「長崎の水問題など、身近なことについて詳しく知ることができた。」「300mLの水に0.1mLのコーラを入れるだけで、COD値が上がることに驚いた。」「水の汚染状況の調べ方、これから環境を改善していく方法など、新たな情報をたくさん得ることができた。」「長崎は水に関係した調査の甲斐がある課題がたくさんあることが分かった。」など、課題解決への糸口を見出すことができたようです。

②長崎大学工学部

7月31日（月）、31名の生徒が長崎大学工学部に訪問し、膜を利用したろ過実験や水処理の体験実習などを通して、水資源の大切さについて学習しました。とても高度な技術の開発について説明をいただいたり、普段は見たり触れたりすることのできないような水処理の機器に実際に触れて、実験を体験したりしました。また、座学では、スライド写真でアフリカなど現地での実験の様子について説明をいただき、世界での水資源の確保の大変さや大切さを学習することができました。生徒にとって、普段は体験できないような貴重な時間を過ごすことができ、今後の課題研究に意欲を高めることができたようです。



③浦上浄水場

7月28日（木）、26名の生徒が浦上浄水場（長崎市昭和町）を訪問し、浄水施設を見学しました。浄水システムの説明や、昭和20年から稼働している浦上浄水場の歴史、そして現在長崎市が抱える水問題など、様々なお話をいただきました。生徒からは「凝集剤を用いたフロック形成、沈殿は浄化のための大切な作業になることが分かった。」「浄水のシステムを知ることができたので自分たちのテーマに生かしたい。」など、それぞれの課題研究に向けて、貴重な知識を得ることができたようです。

